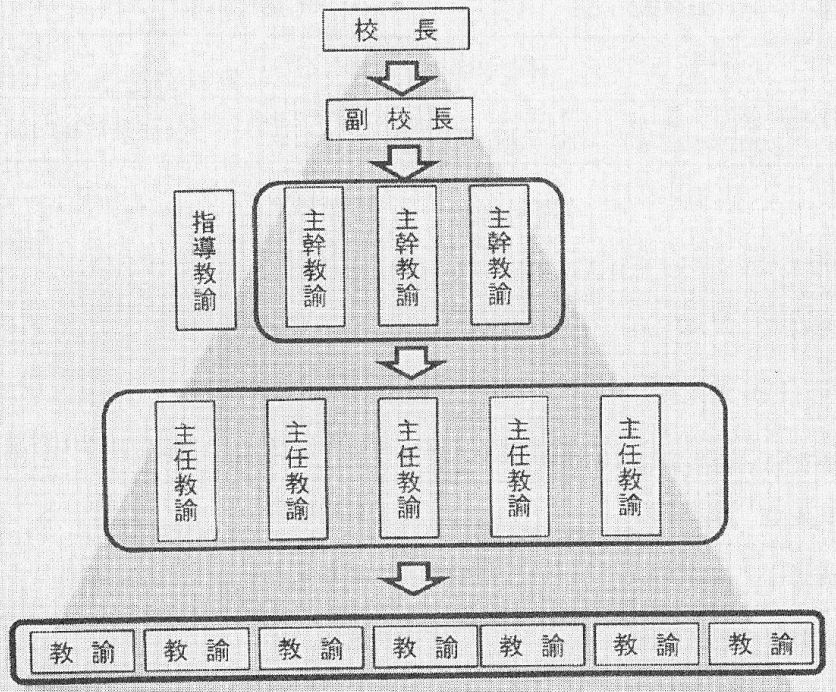
これからの学校（チーム学校）

組織としての学校とチームとしての学校

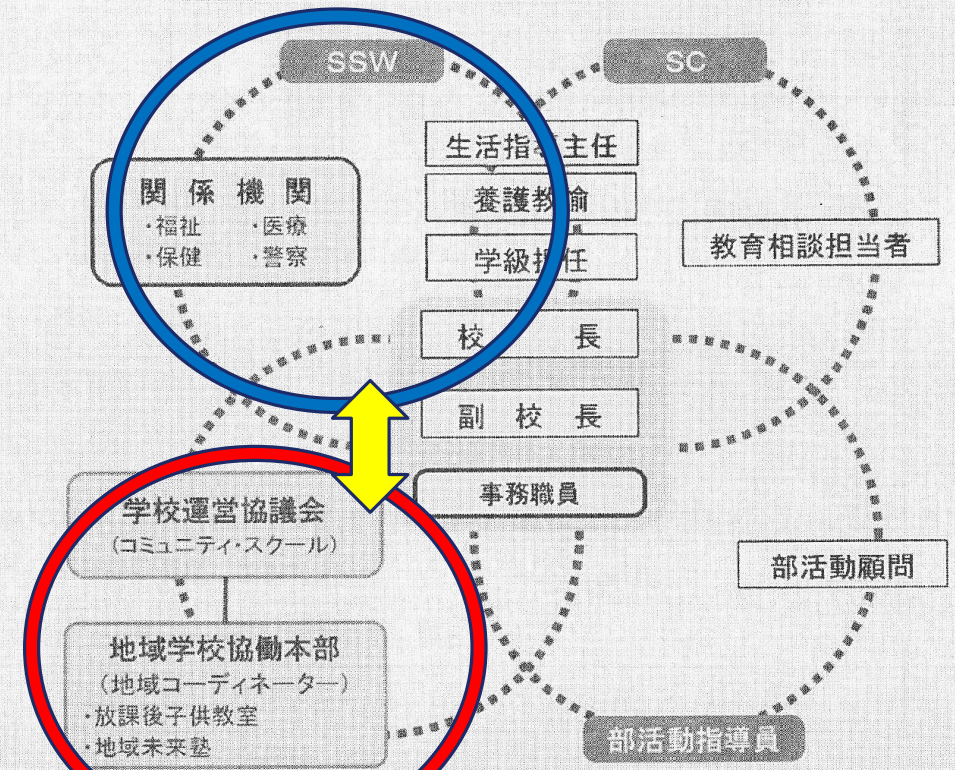
組織としての学校（イメージ）



これまでの学校組織は、管理監督職である校長・教頭（副校長）とその他の教員により構成される「鍋ぶた型組織」であった。このことは、教頭（副校長）の管理スパンが広すぎ、権限と責任の面で問題があった。

学校の組織対応力を高めるため、中間監督層としての主幹教諭や、学校運営上の重要な役割を担う主任教諭を設け、学校組織の見直しに取り組んでき

チームとしての学校（イメージ）



これまで、学校が直面する課題に対して、教員が研修や能力開発により「多能化」することで解決を図ってきた。

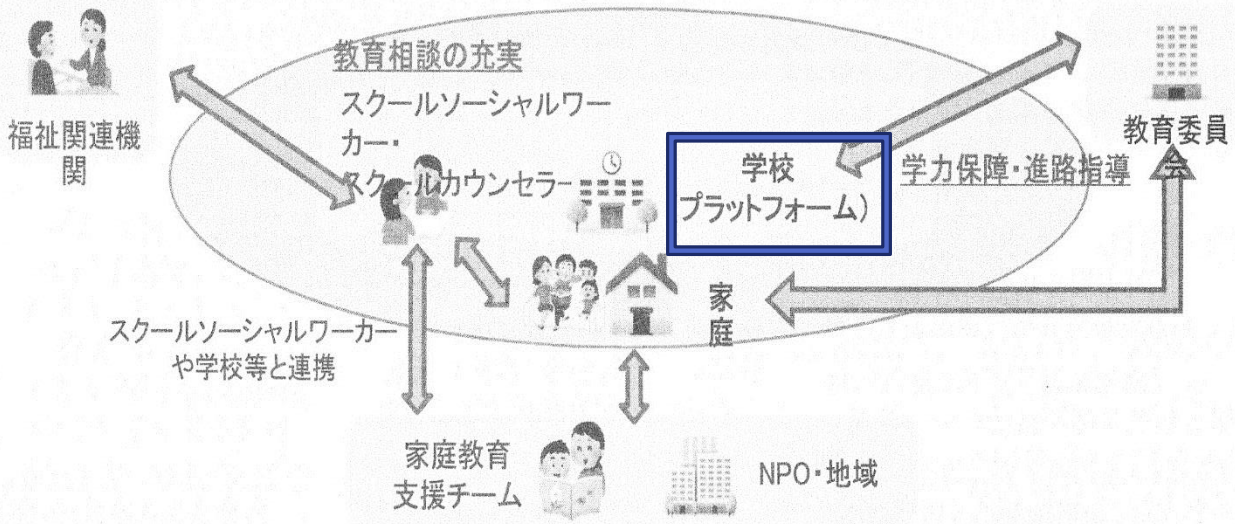
「チームとしての学校」は、教員の「多能化」による対応には限界があり、教員の業務を見直し、それぞれの課題に応じた専門家を学校に取り込みながら、対応していくという新しい学校観である。

学校教員が、本来の教育活動に専念できる状況を創る

文部科学省資料

学校をプラットフォームとした総合的な子供の貧困対策の推進

全ての子供が集う場である学校を、子供の貧困対策のプラットフォームとして位置づけ、学校における学力保障・進路支援、子供の貧困問題への早期対応、教育と福祉・就労との組織的な連携、地域による学習支援や家庭教育支援を行うことにより、貧困の連鎖を断ち切ることを目指す。



※ ()内は、平成28年度予算額

学校教育における学力保障・進路支援

■貧困等に起因する学力課題の解消のための教員定数の加配措置　[28年度] 150人 → [29年度要求] 550人(＋400人)

■主に学力向上を目的とし、補習・補充学習等を行うサポートスタッフを派遣(高等学校分)

【29年度要求額:5.4億円(4.7億円)】[28年度]1,150人 → [29年度要求]1,300人

■定時制・通信制課程や総合学科における多様な学習を支援する高等学校の支援　【29年度要求額:0.8億円(0.8億円)】

教育相談の充実

■スクールソーシャルワーカー・スクールカウンセラーの配置拡充　【29年度要求額:69億円(55億円)】〔補助率1/3〕

①福祉の専門家であるスクールソーシャルワーカーの配置拡充

②スクールカウンセラーの配置拡充